

苫小牧市立清水小学校学校だより

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』
◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

第12号 令和4年2月25日発行

simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

平等と公平

校長 堀田 稔

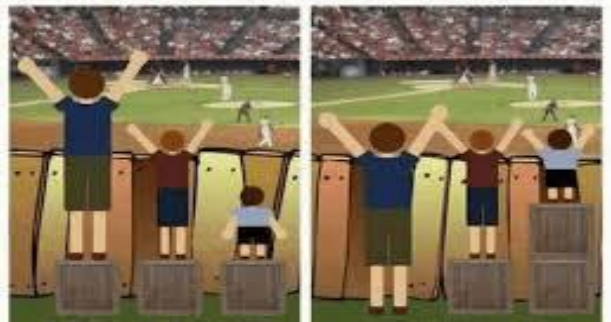
コロナ感染症対策が行われ、2年の月日が流れ3年目になろうとしています。そんな時代の中、清水小学校の令和3年度も残り一月となりました。6年生は卒業に向けて、1～5年生は進級に向けて、最後のまとめの学期となっています。

どちらがいいと思いますか？

子ども達の友達や先生との会話でよく聞く言葉に「ずる～い」「不公平だ」「なんであの人だけ」などがあります。

担任を持っているときに、右の図などを利用して、その言葉について子ども達に、どちらが自分は「いい」と思うのか、考えてもらうことがよくありました。

多くの子ども達は向かって右側を選び、平等だ。公平だと言っていました。



あれ？

しかし、「ずるい」などの言葉を発した時に理由を聞くと「同じでないから」と言います。何でも、同じにしないといけないなら向かって左側だよ。という質問で子ども達は、じっと眺めながら考え、自分たちなりの答えを出し、問題を自ら解決したり、仲良くしようと声かけを変えたりする場面を目にすることがありました。

「AI」よりも先に

時代が変わり「AI」が進化して、今は「知識の量」の部分で人間はもう敵わなくなってきています。人として「AI」にないもの、できないことを探さないと、仕事がない世の中になっていくと言われて、大変な時代に突入したように感じています。そんな中「言葉の意味を深く考える」「言葉の裏を考える」「心や優しさ」などは、「AI」には、まだまだ時間がかかる部分だそうです。今後、知識以外のものを「AI」が身に付けた時には考え方をさらに変えていかななくてはなりません。先々を考えられる想像力と創造力が身につくように、子ども達に考える機会を多く作り、育みたいと考えています。

平等と公平についてお子さまと話をしてみることで、兄弟げんかの解決方法の一つとしてや、成長していく中での「見方」や「考え方」が今以上に幅が広がるのではないかと考えています。ご家庭での会話の中で出していただけたらと思っています。

本校に対する、皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、コロナ感染防止の観点から、参観日の中止など、ご迷惑をおかけすることがありますが、これからも清水小学校の教育へのご理解・ご支援・ご参画のほどよろしくお願いいたします。